

近代中国経済史研究と アメリカ聖公会アーカイヴ¹⁾

林 幸 司

筆者は近年、近代中国経済が西欧を発端とする様々な経済制度を受け入れながら、世界経済へと接合されていく過程について、上海のアメリカ系高等教育機関において展開されたビジネス教育と、これを推進した経済学者の視点から、研究をすすめてきた。1920年代を中心に、アメリカ系高等教育機関を皮切りとして、中国で盛んに展開されたビジネス教育は、世界で同時代的にみられた高等商業教育制度化のながれの中に位置づけられるものである。そしてこの流れは、欧米の宣教ミッションによる伝道活動のような宗教的営為、そして各国のビジネス展開とグローバル経済の進展と軌を一にするものであった²⁾。

以上のような問題意識から、筆者は上海における高等教育機関を運営した主体であるアメリカ聖公会の海外伝道活動に関心を持ち、宣教ミッショ

-
- 1) 本稿は、成城大学特別研究費助成（2011年度～2019年度）および科研費（若手研究B〔課題番号：24730295〕、基盤研究C〔課題番号：17K03857〕）による研究成果の一部である。
 - 2) 林幸司「あるアメリカ人経済学者と近代中国の出会い——若き日のC. F. リーマー」『成城大学経済研究』第216号、2017年。林幸司「1920年代、上海における宣教ミッションと高等商業教育——上海セント・ジョン大学の事例から」『歴史と経済』第245号、2019年。なお、筆者の問題意識とは異なるが、中国における欧米宣教ミッションの活動は、様々な文脈から研究が進んでいる。これら研究状況については、土肥歩『華南中国の近代とキリスト教』（東京大学出版会、2017年）、同「対華二十一箇条要求と中国キリスト教界」『明治学院大学キリスト教研究所紀要』51巻、2019年、などを参照のこと。

ン資料の収集に取り組んできた。宣教ミッション資料については、英国教会宣教会 (Church Missionary Society) 資料が公刊されているのをはじめとして、複数の組織の資料群が知られており、キリスト教史の分野のみならず、広く外交史や社会経済史研究にも用いられてきた。他方、アメリカ聖公会の伝道活動にかかわる史料は、主としてアメリカ聖公会アーカイヴ (The Archives of the Episcopal Church) において体系的に収蔵されている³⁾。本稿では、筆者がおこなった調査を軸として、アメリカ聖公会アーカイヴの成り立ちと所蔵資料の特徴、および閲覧の実際などについて、その概略を紹介することとした。

I アメリカ聖公会の海外伝道と中国

アメリカ聖公会 (アメリカ・プロテスタント監督教会, Protestant Episcopal Church in the United States of America) の起源は、アメリカがイギリスから独立する前の植民地期において、中部・南部のイギリス植民地を中心に展開していた、英国国教会 (Church of England) に連なる教会組織に求められる。英国国教会は、主にその植民地を媒介として世界に拡大し、各地にアングリカン (聖公会) 教会を成立させていくが、アメリカでは、スコットランド教会から主教職を継承したため、エписコパル教会 (主教制教会) と名乗るに至った⁴⁾。他方、アメリカ聖公会は、アメリカのイギリスからの独立に際して、イギリスの体制機関の一部としての機能を失ったため、自発的な財政による教会運営を迫られた。こうした経緯が、アメリカ聖公会のアメリカ国内外における積極的伝道活動の背景に存在したと言えるであろう⁵⁾。

3) なお、アメリカにおける中国宣教ミッション関係資料の所蔵状況については、Xiaoxin Wu Eds. *Christianity in China : A Scholar's Guide to Resources in the Libraries and Archives of the United States*. Routledge, 1989. を参照のこと。

4) 大貫隆・名取四郎・宮本久雄・百瀬文晃編『岩波キリスト教辞典』岩波書店、2002年、635頁。

当時、アメリカから中国へのミッション派遣は、学生派遣運動 (The Student Volunteer Movement) や、ミッションナリー教育運動 (Missionary Education Movement)、平信徒ミッションナリー運動 (Laymen's Missionary Movement) など、アメリカ本国における海外へのプロテスタント宣教ミッション派遣の機運の高まりにともなうものであった⁶⁾。海外へのミッションの派遣形態には、(1)メソヂスト監督教会 (Board of Foreign Missions of the Methodist Episcopal Church)、南メソヂスト監督教会 (Board of Missions of the Methodist Episcopal Church, South)、アメリカ聖公会 (Domestic and Foreign Missionary Society of the Protestant Episcopal Church in the United States of America)、米国長老教会 (Board of Foreign Missions of the Presbyterian Church in the United States of America)、バプティスト教会 (American Baptist Foreign Missionary Society) など、単一の組織によりおこなうもの、(2)キリスト教外国宣教協会 (The Foreign Christian Missionary Society) や、米国外国派遣宣教組織 (American Board of Commissioners for Foreign Missions, ABCFM) など、複数の組織が聯合しておこなうもの、(3)クリスチャン・ミッションナリー同盟 (Christian and Missionary Alliance) など、特定の宗派によらず福音主義の流れでミッションを形成するもの、などがある⁷⁾。このように、アメリカ系プロテスタント宣教ミッションは、時に宗派やナショナルリティを越えた組織の形態を伴いながら、伝道事業を展開していくこととなる⁸⁾。

アメリカ聖公会の海外伝道活動は、上記(1)の形態をとったが、これを担

-
- 5) 大江満「アメリカ聖公会の成立と海外伝道の展開」『立教学院史研究』第5号、2007年、50頁。
 - 6) Rabe, Valentin H. *The Home Base of American China Missions, 1880-1920*. Harvard University Press, 1978. pp. 9-10.
 - 7) Rabe. *The Home Base of American China Missions, 1880-1920*. pp. 15-18.
 - 8) 例えば、アングリカン・コムニオン系統のミッションが設立した各大学では、統一的運営をおこなうため、1915年に、Association of Christian Colleges and Universities が設立されている (1924年、China Association for Christian Higher Education と改称。佐藤尚子著『中国ミッションスクールの研究』60～61頁)。

ったのは、国内外宣教協会(The Domestic and Foreign Missionary Society, DFMS)であった。同協会は、1821年9月にアメリカ・フィラデルフィアで組織された、アメリカ国内の聖公会教会組織がない地域において教会を設立することと、外国におけるそれとを、同時に行おうとする機関である。アメリカ初の海外伝道組織としては、すでに1810年に認可されたアメリカン・ボード(American Board of Commissioners for Foreign Missions)⁹⁾があったが、聖公会国内外宣教協会は1834年、中国・コーチシナ・シャム・ビルマ方面への宣教ミッションの派遣を決定している¹⁰⁾。この伝道事業は、聖公会伝道局(Board of Mission)によって監督され、各地へと派遣される多くの宣教組織は、この管轄下に置かれることとなった。そして1835年、ロックウッド(Rev. Henry Lockwood)とハンソン(Rev. Francis R. Hanson)が、広東に到着した¹¹⁾。これがアメリカ聖公会における中国宣教ミッションのはじまりである。1842年、アヘン戦争とともに、五港(広州、厦門、福州、寧波、上海)が開港され、香港がイギリス領になると、アメリカ聖公会の伝道活動も本格化する。1844年12月、アメリカ聖公会総会は、中国に主教(Bishop)を派遣することを決定し、マカオやシンガポール・バタヴィアなどへの赴任経験を持つブーン(Rev. William J. Boone Sr.)¹²⁾が、香港を経て同年7月、

9) 第二次信仰復興運動の高まりの中、1810年に認可された、アメリカ初の海外伝道組織。インド・ハワイ・アフリカ・中国・日本などに数百名の宣教師を派遣した。1961年の教会合同を機に、合同教会世界宣教局(United Church Board for World Ministries)と改称。『岩波キリスト教辞典』144-145頁。

10) The Domestic and Foreign Missionary Society of the Protestant Episcopal Church in the United States of America. *An Historical Sketch of the China Mission of the Protestant Episcopal Church in the U.S.A. from the First Appointments in 1834 to include the year ending August 31st, 1884.* New York: The Domestic and Foreign Missionary Society of the Protestant Episcopal Church in the United States of America, 1888, p. 7

11) Richmond, Annette B. *The American Episcopal Church in China.* New York: The Domestic and Foreign Missionary Society of the Protestant Episcopal Church in the United States of America, 1907, pp. 2-3.

12) 1811年、アメリカ・サウスカロライナ州生まれ。DFMSのミッションとして、オランダ領東インドや中国へ派遣され、中国初のアメリカ聖公会司教と

上海に赴任した¹³⁾。これよりアメリカ聖公会の宣教ミッションは、上海英米租界（のちに共同租界）を中心に、展開していくこととなる。

上海の租界は、1842年、アヘン戦争の講和条約である南京条約で五港が開港された後、翌年の虎門寨追加条約によって、上海にイギリス租界設置が認められたことに起因する。その後1845年にイギリス租界、1848年にアメリカ租界、そして1849年にフランス租界が相継いで設置され、1863年にはイギリス租界とアメリカ租界が合併して共同租界が誕生した。これらの租界では、外国人による「自治」が認められていた。共同租界では参事会（工部局）、フランス租界では公董局が、それぞれ租界領域内での統治にあたっており、事実上の治外法権状態であった。

上海租界の規模は、年を追う毎に拡大していった。租界の人口は、1865年に共同租界が92,884人、1927年には840,226人へと急増していた¹⁴⁾。このように、上海租界が急速に拡大したのは、一つには上海が対外貿易の中心地として重要性を増したからであった。上海の対外貿易は、中国全体の対外貿易額の4~5割を占めていた¹⁵⁾。このような中で、上海を通じた中国-アメリカ間貿易が大きく拡大するとともに、商人を中心に上海在住のアメリカ人も増加し、これに伴って教会や同業組織¹⁶⁾、教育機関などが設立され、アメリカ人コミュニティが形成されていくこととなった¹⁷⁾。

なる。1845年より上海に赴任し、聖書翻訳にたずさわる。1864年、上海にて死去。Shavit, David. *The United States in China. A Historical Dictionary*. Connecticut: Greenwood Press, 1990, P. 52.

13) *The American Episcopal Church in China*. Pp. 14-15.

14) 鄒依仁『旧上海人口変遷的研究』上海人民出版社、1980年。

15) 張仲礼主編『近代上海城市研究(1840-1949)』上海文艺出版社、2008年、103頁。

16) 例えば商業に関しては、1915年に中国アメリカ商業聯合会(American Chamber of Commerce of China)が発足している。32の企業、16人の個人会員からはじまった同聯合会は、1920年には91の企業、122人の個人会員へと増加したという。“American Chamber of Commerce of China Annual Report of the President and Committee for the Year 1919-1920”. *Millard's Review*. June 19th, 1920, pp. 119.

17) とくに第一次世界大戦以降、中国におけるアメリカの存在感は徐々に増して

アメリカ聖公会は、その後上海を拠点として、南京・漢口・長沙など、長江中下流域の諸都市を中心に布教活動をすすめていった。上海以外では、武漢(武昌・漢口)での活動が著名である。武昌では、ブーン・カレッジ(Boone College)、華中大学(Hua-Chung University)、教会総合医院(Church General Hospital)が設立され、漢口では、Choir School, The Trade School, Catechetical Schoolなどの機関が設立されている¹⁸⁾。

II アメリカ聖公会アーカイヴの設立

ところで、アメリカ聖公会アーカイヴがなぜテキサス州にあるのか、不思議に思われる向きもあろう。ここで、アメリカ聖公会アーカイヴ設立の経緯について、記しておきたい。

聖公会アーカイヴの創設の中心的人物は、ホークス(The Rev. Francis Lister Hawks)である。彼は、1798年ノースカロライナ州に生まれ、コロンビア大学および総合神学校(General Theological Seminary)卒業後、1836年から同校から分離されたアーカイヴの管理者となった。ここで彼は、旧植民地管区やイギリス本国からの原典資料や文書を収集し、アメリカ聖公会の最高意思決定機関である総会(General Convention)アーカイヴを作成した。ここには、ニューヨークのトリニティ教会から寄贈されたものも含まれているという¹⁹⁾。

ホークスが創設したアーカイヴを実質化したのが、彼の後を継いだペリー(The Rev. William Stevens Perry)である。彼は1868年からアーカイヴ管理

いく。中米貿易は1914年から10年間で324%の増加を見せ、アメリカ人の人口は1914年時点で1,659人、1926年には3,614人となっている。何振模著、張笑川・張生・唐艷香訳『上海的美国人：社区经济与对革命的反應(1919-1928)』上海辞書出版社、2-3頁。

18) Episcopal Church Department of Missions. *Handbooks on the Missions of the Episcopal Church*, pp. 12-13.

19) “History and Background”. アメリカ聖公会ホームページ (2019年12月閲覧, <https://www.episcopalarchives.org/about-the-archives/history-and-background>)

者となった。この時期から、総会聯合常任委員会がアーカイヴを管轄するようになる。1930年、ホークスとペリーの手による総会アーカイヴは、ニューヨーク歴史協会 (New York Historical Society) に収められた²⁰⁾。

1940年、総会はフィラデルフィア神学校 (Philadelphia Divinity School)²¹⁾に教会歴史協会 (Church Historical Society, CHS) を結成し、ここに CHS が総会の新たな資料の保管と協会の出版事業を担当することとなった。そしてこのフィラデルフィア神学校の改組に伴って、アーカイヴは1957年より、テキサス州オースティンの南西部神学校 (Episcopal Seminary of the Southwest)²²⁾に順次移転された。また1959年には、専任のアーキビストが配属された²³⁾。ここにおいて、概ね20世紀までの資料がニューヨーク歴史協会に、それ以降の資料と海外伝道関係の資料がオースティン・聖公会アーカイヴに、それぞれ分置されるという状況が生じたようである。そして1986年以降、アーカイヴは再び総会の管轄下に置かれることとなり、専任アーキビストや設備の拡充をはかるとともに、一般への資料開放がさらに促進され、現在の状態へといたったのである。

-
- 20) 筆者は未見であるが、同協会図書館において、アメリカ聖公会総会資料の他、Francis L. Hawks Papers (1833-1866) と称される文書が収蔵されているようである。これらの文書については、今後の調査課題としたい。
- 21) 1857年、フィラデルフィアに設立された聖公会系神学校。1974年、ケンブリッジ神学校と合併され、聖公会神学校 (Episcopal Divinity School) とされた。Don S. Armentrout and Robert Boak Slocum, eds. *An Episcopal Dictionary of the Church: A User-Friendly Reference for Episcopalians*. New York: Church Publishing.
- 22) 1952年、聖公会テキサス管区によりオースティンに設立された神学校。1954年に校舎用地が確定し、現在に至る。Lawrence L. Brown. "Episcopal Theological Seminary of The Southwest". *Handbook of Texas Online*. 2019年12月10日閲覧。
- 23) "History and Background". アメリカ聖公会ホームページ (2019年12月閲覧, <https://www.episcopalarchives.org/about-the-archives/history-and-background>)

Ⅲ アメリカ聖公会所蔵文書の概要

アメリカ聖公会アーカイヴには、主として以下のような種類の文書が所蔵されている。

- (1) アメリカ聖公会国内外宣教協会の公式資料
- (2) アメリカ聖公会定期総会 (General Convention) 資料
- (3) アメリカ聖公会各支部 (Diocese) 資料および関連する二次資料群

アーカイヴに所蔵される資料については、開放資料 (Open records) については、30年が経過すると閲覧に供される。他方、機密資料 (Confidential records) には、個人情報、敏感な個人情報などを扱う文書が含まれ、80年間が経過すると閲覧に供される。これら資料について、資料の保存状態が悪い場合や、個人情報が除かれていない場合、また文書の処理や評価がなされていない場合、また文書の提供者が閲覧制限をかけている場合は、閲覧に供されない。この他、中国ミッションについては口述史プロジェクトが進行している。また、個人情報の収集もなされている (ただし非公開)。

アーカイヴにおける資料調査の中でも、中国近代史にかかわる資料は、国内外宣教協会についての資料群の中に含まれている。このうち、筆者が閲覧した資料は、以下の通りである。

(1) 中国におけるアメリカン・スクールおよび大学関連資料

筆者が閲覧した資料の中心部分は、American School in China および College and University (Record Group 79) として区分されているものである。この中には、アメリカ聖公会が設立の中心的役割を果たした、中等教育機関 (Kuling School [牯嶺美国学校])、高等教育機関 (Boone College [ブーン・カレッジ, 武昌], Hua Chung University [華中大学, 武昌], St. John's University, Shanghai [上海聖約翰大学, 上海]) の史料が含まれている。中でも充実しているのが、St. John's University²⁴⁾に関する史料である。ここでその概要を

紹介する。

(i) 現地からのレポート及び往来書簡類

聖公会アーカイヴに所蔵される St. John's University 関連資料のうち、最も貴重かつ有用なものである。大学側は、本国の聖公会側に活動内容を報告するため、各種レポートを定期的に作成し、これを本国宛に送付していた。ここに含まれるのは、学長による定期報告 (President's Annual Report) や、各学部長の報告 (Dean's Report)、図書館報告 (Annual Report of the Librarian)、附属高級中学報告 (Middle School Report)、その他活動報告などである。また、大学関係者と本国聖公会側の間で交わされた書簡についても、時系列に整理され保存されている。なかでも目を引くのは、ポット文書 (F. L. Hawks Pott Papers) と総称される文書の中に含まれる、初代学長ポット²⁵⁾と本国の聖公会伝道局との間で交わされた往来書簡群である。このなかからは、大学側が本国に財政面および人材面からの度重なる支援要求をしていたことや、中国の政治的混乱状況への対応過程、本国教団側からの大学組織やカリキュラム編成に対する要求など、多くの事項を詳細に知ることができる。なお、これらレポートおよび往来書簡類の収録時期は、大学が創立された 1919 年から、中華人民共和国建国後の政府による接収で閉学する 1952 年頃までである。

24) 1847 年、ブーンが設立した男子校を起源とする。1899 年、St. John's College へと改組。1905 年、アメリカ・ワシントン特別区にて大学として登記される。1952 年、華東師範大学、復旦大学などに編入され、閉校。

25) 中国名：卜舫济，1864 年ニューヨーク生まれ。コロンビア大学および General Theological Seminary 卒業後、アメリカ聖公会内外宣教協会により、牧師として中国へ派遣される。1886 年に St. John's College に赴任、1888 年より校長就任。1925 年、五・三〇運動の勃発とともに St. John's University を離れる。1936 年アメリカに帰国。1945 年上海に戻り、1947 年同地にて死去。熊月之主編『上海名人名事名物大観』上海人民出版社、2005 年、4 頁。David Shavit, *The United States in Asia: A Historical Dictionary*. p. 402.

(ii) 大学に関連する史料

つぎに、大学に関連する資料としては、大学創設にかかわる史料（趣意書、アメリカ本国における登記関連書類）、大学史関連文献（研究書、周年記念文献など）、付設の女子高校（St. Mary's Hall）関連史料などが含まれる。また、大学閉学後の同窓会（Alumni）史料についても一部（1954～1958年）収録されている。

(iii) 定期刊行物

大学の教育課程を詳細に記したカタログ類については、1930年代を中心に収録されている。また、毎年発行されていたアルバム（*The Johannean*）は、1949年版までが収録されている。これらの文献は、大学の組織のあり方のみならず、学生の活動内容や、在学生・卒業生の動向を知る上でも、有用である。

(2) 中国における聖公会関連資料 (Church in China)

先述したように、アメリカ聖公会は、国内外宣教協会が主体となって、19世紀後半より、上海・南京・漢口など、長江流域の諸都市を中心に、主として華中地域への布教活動をすすめていった。1912年には、中華聖公会（Holy Catholic Church of China）が成立し、中国における独立した教会組織が出現することとなる。聖公会アーカイヴでは、中国の教会組織に関連する史料として、現地のレポートおよび往来書簡（1918～1950年）、主教（Bishop）報告（1899～1948年）、中国におけるアメリカ・ミッション人名録（1940～1950年）、アジアキリスト教高等教育連合会議（United Board for Christian Higher Education in Asia）関連史料（1922～1951年）、女性宣教サービス連盟（Women's Missionary Service League）関連史料（1931～1949年）などが収録されている。

(3) 宣教管区関連資料 (Missionary Diocese)

先述の通り、アメリカ聖公会の中国における活動は、上海管区 (Diocese of Shanghai) を中心として、各地に展開していた。聖公会アーカイヴでは中国の各管区の資料が収録されているが、上海については、往来書簡 (1929~1944年)、顧問委員会 (Council of Advice) 記録 (1925年~1939年)、管区内病院 (無錫、楊州、上海) 報告 (1940年~1947年)、その他統計報告 (1940年~1949年) などが収められている。

(4) 中国関連資料 (China Records)

その他に、中国関連資料 (China Records) として区分されている資料群は、時期および地域によってさらに詳細な分類がなされている。この中でとくに貴重なのは、中国現地とアメリカ本国の往来書簡が、その書簡群の作成者ごとに、作成日もしくは本国への到着日順に整理されている点であろう。例えば、筆者の関心が最も深い、経済学者リーマー²⁶⁾に関する資料群 (RG64/50-14, 15) の中では、1917年頃から1922年頃までにリーマーと本国聖公会伝道局の間で交わされた往復書簡が時系列に整理されている。これにより、リーマーの中国赴任や活動状況全般に至る詳細な過程を、アメリカ側からの視点で把握することが可能となった。

26) Charles Frederic Remer, 1889年、アメリカ・ミネソタ州生まれ。ミネソタ大学で政治経済学を専攻し、卒業後の1910年、フィリピン教育局勤務。1912年、上海セント・ジョン大学に助手として赴任。1916年、研究休暇を利用してハーバード大学大学院に進学し、タウシグ門下で経済学修士号取得。1917年、セント・ジョン大学教授 (~1922年)。1923年、ハーバード大学経済学博士。ウィリアムズ・カレッジを経て、1928年、ミシガン大学経済学教授 (~1959年)。1972年、アメリカ・カリフォルニア州にて死去。中華民国期経済をアカデミックな研究対象とした最初期のアメリカ人研究者として知られ、中国への外国投資研究 (*Foreign Investments in China*. New York: Macmillan Company, 1933) をはじめ、多くの著作がある。なお、リーマーについては、前掲林幸司「あるアメリカ人経済学者と近代中国の出会い―若き日のC. F. リーマー」を参照のこと。



テキサス大学オースティン校 (筆者撮影)

IV アメリカ聖公会アーカイヴ調査の実際

ここで、筆者の経験²⁷⁾に基づきつつ、聖公会アーカイヴにおける調査について紹介しておく。

(1) オースティンと聖公会アーカイヴ

まず、アーカイヴ所在地であるオースティンは、広大なテキサス州のほぼ中心に位置する州都である。近年 IT 産業によって活況を呈しているオースティンは、第 36 代アメリカ大統領であるリンドン＝ジョンソン（在任：1963～1969 年）の出身地域であり²⁸⁾、名門テキサス大学の本部キャンパス（オースティン校）が町の中心部に設置されるなど、リベラルな文教都市としても知られている。オースティンの歴史資料については、ダウンタ

27) 筆者はこれまで、2012 年と 2013 年の 2 度にわたって、聖公会アーカイヴにおける調査をおこなった。ここでの記述は、基本的に両年の経験に基づくものであることをお断りしておく。

28) このような経緯から、オースティンには、リンドン＝ジョンソン大統領図書館・博物館 (Lyndon B. Johnson Presidential Library, <https://discoverlbj.org/>) が設置されている。



オースティン・ヒストリー・センター（筆者撮影）



SSW の Visitor suites（単身者用、筆者撮影）

ウンの中心部にあるオースティン・ヒストリー・センターに行けば閲覧が可能であり、地域の歴史研究もすすめられているようである。

オースティンの対外的玄関口であるバーグストロム国際空港から、アーカイヴのある Rathervue Place までは、タクシーで 30 分程度で着く。バスなどの公共交通機関を利用する場合は、St. David's Hospital 付近のバス停から住宅地を徒歩 10 分程度で着くが、本数が多いわけではなく、やや不

便である。アーカイヴ利用者は、敷地内に隣接する Seminary of the Southwest (SSW) の駐車場を無料で利用できるため、可能な場合は自動車を利用の方が便利であろう。宿泊については、アーカイヴの南側にあるテキサス大学オースティン校に隣接する地域に点在するホテルを利用するか、インターステイト・ハイウェイ沿いのモーテルなどを利用することとなる。もし SSW の Visitor suites²⁹⁾を利用することができれば、徒歩1分でアーカイヴ閲覧室に行くことができ、至便である。

(2) アーカイヴの利用に関する手続き

現地に行く前に、私は日本国内において事前にホームページの Research Request Form から閲覧希望のメールを送り、その後は E-Mail および FAX・電話での連絡を交わし、事前連絡をおこなった。キリスト教研究者を除けば、日本人がアーカイヴを訪れることは多くないとのことであった。

アーカイヴの受付 (Reference counter) は、上掲写真奥の建物の2階にある。ここでまずアーキビストに閲覧の手続きを依頼する。パスポートを提示のうえ、申請書 (Application Form) に閲覧目的や住所などを記入すればよいが、閲覧室が狭いため、事前の予約は必須である³⁰⁾。なお、申請書には二人の「紹介者」名を書く欄があるが、特にその証明などを求められるわけではなく、あくまで形式的なもののようなものである。私の場合は、事前にダウンロードしておいた申請書に、日本の研究者のお名前を挙げておいた。

受付が終わると、その隣にある閲覧室に案内される。ここには閲覧席と閲覧可能文献目録カードが備えられており、この文献目録カードに記載さ

-
- 29) 私の場合、アーキビストへの事前連絡の過程のなかで、SSW の学長付秘書を紹介してもらい、安価 (一泊約 60 ドル) にて当該宿舎を利用することができた。
- 30) 開室時間は月曜日から木曜日の 9 時～16 時 45 分 (祝日を除く) となっているが、団体の見学ツアーなどが入っている場合は、閲覧を断られる場合もあるので、注意が必要である。

近代中国経済史研究とアメリカ聖公会アーカイヴ

れている資料番号などを、閲覧申請書に記入して、資料の取り出しを依頼する。前述したように、これら資料にはその属性によってクラス分けがなされている上、いわゆる「80年ルール」が適用されるため、目録上にあるすべての資料が閲覧できるわけではない。おおむねどのような資料の閲覧を希望するのか、事前になるべく具体的にアーキビストへ伝えておいた方がよいだろう。

(3) 資料の複写

私のような一般の閲覧者に対しては、資料の複写などは比較的厳重に管理されている。ノートパソコンおよび鉛筆による筆記は可能であるが、デジタルカメラやスキャナーなどによる資料の撮影は禁止されている。資料のコピーは可能であるが、コピーの依頼手数料 (Processing fee) 20 ドルに加えて、紙コピー・画像スキャンともに 0.5 ドル/頁の費用が課される上、

Home News TEC Contact

Release Digital Archives

Search the website Search

About Using the Archives Holdings Digital Archives Text Center Resources

Featured Exhibits and Collections

- United Thank Offering
- Venture in Ministry
- A Ministry of Preaching
- Native American Episcopal Experience
- Women in "The Senior House"
- African Americans in the Episcopal Church

More Exhibits and Collections

- Submit a Research Request
The Archives welcomes research inquiries from members of the Church and from the general public.
- Explore the Digital Archives
Recent policies, positions, and statements by and about governing bodies of The Episcopal Church.
- Consult Governance Documents
The Archives gathers a collection of formal documents that constitute the Church's canonical texts.
- Browse Holdings Profiles
An outline of select holdings provides an overview of the Archives' organizational records and special collections.
- Donate to the Archives
The Archives invites you to support its mission by making a donation of funds or contributing archival records to its historical collections.
- Find Diocesan Resources
Help for parishes and dioceses in managing their own archives and records management programs.

Archives News

Jonathan Daniels Exhibit

On August 14 the Archives and the Secretary of the Southwest announced the opening of an exhibit to mark the anniversary of Jonathan Daniels' death. Entitled Jonathan Daniels: Called to Be Fully Present, the exhibit draws on the Archives' collections received in part from the recent acquisition of the **Episcopal Divinity School Archives**. The exhibit features original source material and a narrative of Daniels' early life, his awakening, and death. Special acknowledgment goes to intern archivist, Noble Brigham, who led the production and design team. Noble is a senior at Episcopal Academy in Newtown Square, PA. The exhibit is part of an extended online exhibit, *The Church Awakens*, telling the story of African American Episcopalians from an historical perspective. Visit *The Church Awakens* to learn more about the life of Jonathan Daniels.

Jonathan Daniels Exhibit

The George Washington Carver housing projects, located next to Brown Chapel, were a center of SNCC study in Selma. Daniels worked with SNCC on voter registration among Carver residents in the 1960s and help participated in the demonstration. Photo courtesy of the P. H. Rouse Academic Library.

Search the Digital Archives

All Collections

Search Help Search

アメリカ聖公会アーカイヴホームページ

該当する資料全体の枚数の10%がコピーの上限とされている。画像スキャンであれば、後日 E-Mail 添付の PDF ファイルで送付してくれるため、便利である。なお、コピー代については、多額になる場合は現地での支払いを基本的に行わず、PayPal による清算を行うことが通例とのことである。

資料閲覧に際して生じる様々な疑問点や問題については、アーキビストに訊ねることができる。ただし規定では、30分を超えてアーキビストを拘束した場合、30分ごとに25ドルの調査費 (Research Fee) を請求されることになっている³¹⁾。

おわりに

歴史研究において最も重要なものが一次史料であることは、言を俟たない。筆者はこれまで、上海市檔案館および上海社会科学院図書館など、中国・上海のアーカイヴにおいても、複数回の関連資料調査をおこなってきた。その際に不明であったのは、これら中国に設立された「教会学校」が、アメリカ本国とどのような連携をとっていたのか、またそれがいかなる組織や機関を通しておこなわれてきたのか、さらにはそれがどのような財政的背景の下で展開していたのか、という点であった。アメリカ聖公会アーカイヴにおける調査は、こうした問題を解決するための有力な方法の一つであったと言えるだろう。

なお、上記調査については、成城大学特別研究費および科研費の助成がなければ実現が不可能であった。ここに記して感謝申し上げたい。

31) 以上の閲覧にかかわる事項については、アメリカ聖公会アーカイヴホームページ (<https://www.episcopalarchives.org/>) にある、Information Packet for Visiting Researchers ファイルにも記載されているので、あわせて参照されたい。

< 概要 >

< Research Office >

The Archives of the Episcopal Church

606 Rathervue Place, Austin, Texas 78705

Phone: + 1 (512) 472-6816

Fax: + 1 (512) 480-0437

Hours of Operation: 9:00AM to 4:45PM Monday - Thursday (by appointment only)

< Records Administration >

815 Second Avenue, New York, New York 10017